

## 1 学校の概要

所在地：〒263-0001 千葉県千葉市稲毛区長沼原町312番地

対象障害：知的障害対象の養護学校

児童生徒数：小学部19名（低学年，中学年，高学年の3学級），中学部18名（学年ごとで3学級），高等部34名（学年ごとで3学級），児童・生徒数合計71名

教職員：36名（教員32名、行政職員4名）

## 本校の生活

本校では、子どもたちの学校生活の充実・発展を願い、子どもが主体的に活動する、子ども主体の学校生活の実現を目指し、実践に取り組んでいます。教育課程編成を「学校生活づくり」と捉え、小学部では生活単元学習を，中学部では，生活単元学習と作業学習を，高等部では作業学習を，それぞれ生活の中心として学校生活を整えることに努めています。中心となる活動をはじめ，学校生活の全ての活動においても，子どもたち一人ひとりが「自分から」「自分で」「精一杯」取り組む，子ども主体を支える状況づくりに努め，子どもたちが今を豊かに生きることを目指しています。

## 小学部の生活

学校生活の中心は生活単元学習です。子どもたちの興味・関心をもとに，時期ごとにテーマを設定して，子ども主体の学校生活になるようにしています。生活の流れを一定にして，見通しをもてるようにし，のびのびと生活できるゆとりある日課を大切にしています。

小学部週日課表

<低・中学年学級>						<高学年学級>						
	月	火	水	木	金		月	火	水	木	金	
9:00	登校					9:00	登校					
9:30	着替え・係の仕事					9:30	着替え・係の仕事					
10:00	全校朝会	おはよう広場				10:00	全校朝会	おはよう広場				
11:50	生活単元学習					11:50	生活単元学習					
1:00	昼食・昼休み					11:50	昼食・昼休み					
1:00	わくわくタイム					1:00	学級の生活					
1:30	着替え・帰りの準備					1:45	児童生徒会	学級の生活				
2:00	下校 2:00					3:00	下校 3:00		2:00	下校 3:00		

## 中学部の生活

学校生活の中心に，生活単元学習と作業学習を据え，週日課表の中に帯状に設定しています。生徒の興味・関心をもとに，教師のねがいも含めて，時期ごとにテーマを決めて，生徒主体の学校生活となるようにしています。わかりやすい一日，一週間として目当てや見通しのもちやすい学校生活にすることを大切にしています。

※高等部の生活は省略します。

中学部週日課表

	月	火	水	木	金
9:00	登校				
9:30	学級の生活				
10:00	全校朝会	部のつどい			
12:00	生活単元学習				
12:00	作業学習				
12:45	昼食・昼休み				
13:45	児童生徒会	総合的な学習の時間			
15:00	学級の生活		学級の生活	学級の生活	
	下校 3:00		2:00	下校 3:00	

## 単元開始までの作成過程、及び生活単元学習の授業づくりにおける考え方

生活単元学習の単元ができあがるまでには、授業者・各学部（小学部・中学部・高等部）・全校教員で単元構想やその支援案（指導案）の検討をします。

①**授業者** 授業者は、子どもたち一人ひとりの「個別の指導（支援）計画」での年間の目標、それまでの単元の様子、本単元で願う姿などを考え合わせて、単元を構想します。子どもたち一人ひとりに願う姿とその学習集団全体に願う姿の両方を考え合わせます。大切なのは学習集団全体に願うことや一人ひとりへ願うことを単元の活動の中で十分に具体化することです。

②**学部会** 授業者が所属する学部の教員全体で単元構想・支援案を検討します。子どもたちと一緒に活動するなど、子どもたちの様子を身近に知る教員が学習集団の目標や一人ひとりへのねがいが具体化された内容になっているか検討し合います。

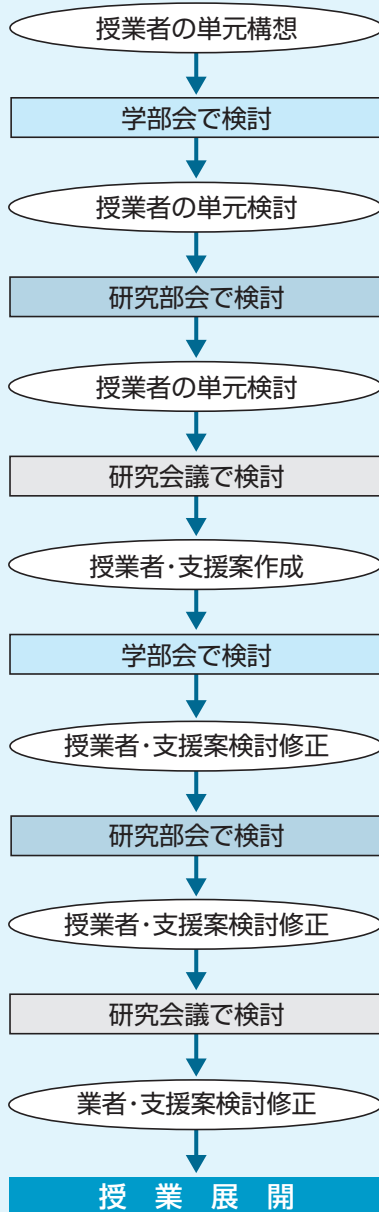
③**研究部会** 校長、副校長、教務主任、各学部2～3名の研究部員（主事を含む）、計12名で構成されています。学部会と同様に、単元のねがいや一人ひとりへのねがいが妥当であるのか、活動内容はねがいが達成できるように具体化されているのかと検討し合います。

④**研究会議** 全校の教員で単元内容・支援案等を検討します。研究部会と同様に、単元のねがいや一人ひとりへのねがいが妥当であるのか、活動内容はそのねがいが達成できるように具体化されているのかと検討し合います。

以上が一通りの単元の作成過程（右図）です。必要に応じて、それぞれの段階で何回も繰り返されることもあります。

作成過程で大切にしていることは、学校全体の研究テーマとして、単元のねがい・活動内容が、子どもたち一人ひとりへのねがい・活動内容に具体化されているのか、それらを達成できる十分な手立てが取られているのかということです。さらに、授業者だけでなく、全校の教員でその単元内容を子どもたちの様子から妥当であるのか、自分だったらどうするかと真剣に考え、検討し合い、お互いに授業づくり・単元づくりにおいて高め合う気持ちをもっていることが大切です。

### <単元開始までの作成過程>



## 2 単元「ぼくらの『くるま』、しゅっぱ〜つ!」(小学部中学年)

### (1) 学級の概要

- ・小学部中学年学級 児童6名(男子6名) 教員3名
- ・これまでの単元の中で、「のりもの」に乗って、遊ぶのが大好きな元気いっぱいの男の子たちの学級です。「のりもの」に乗って坂を勢いよく滑りおりたり、でこぼこ道のガタガタする乗り心地を楽しんだりして遊んできました。道具を使っての製作活動が好きな子もいるので、簡単なデザート作りや写真立てなどの木工での物作りなども行ってきました。

### (2) 単元計画

#### ①単元の概要

- ・平成16年5月31日～6月25日 4週間
- ・学校にある電動カートに、自分たちで「客車」を作ってくっつけて、「くるま」を作りました。毎日、みんなで「作って、乗って」を繰り返し、4週間めいっぱい遊んだ単元です。
- ・この単元を通して、毎日、子どもたちが自分から楽しく「くるま」作りに取り組み、自分たちで作った「くるま」を運転したり、乗ったりして、グランドいっぱい走り回り、学級のみんなでめいっぱい遊ぶ姿を願いました。



「客車の壁を組み立てるよ」

#### 裕太君に対するねがい

- ・裕太君の大好きな乗り物を友だちや教師と一緒に作ったり、乗ったりして毎日楽しく遊んでほしい。
- ・「くるま」の完成も楽しみにしながら、張り切って「ネジ打ち」してほしい。
- ・「くるま」に乗る時には、トンネルや「坂道」など、好きな所を自分で運転して走ったり、クラクションを鳴らすなどして遊んだりしてほしい。
- ・友だちや教師と一緒に「客車」に乗って、坂道でのスピードを楽しんだり、水鉄砲で水を飛ばし合ったりしてほしい。

## ②単元の設定理由

- ・「のりもの」に乗って遊ぶのが、大好きな中学年学級の子どもたちなので、小学部グラウンドに置いてある電動カートにも自分から乗って、ハンドルを握っては楽しそうに遊んでいました。この大好きなカートに、自分たちで装飾したり、みんなで乗れる「客車」を作って付けたりすれば、ステキな「くるま」が出来上がり、さらに楽しく乗って遊べるだろうと考えました。
- ・大好きな「くるま」に乗ったら、いろいろな乗り心地のコースも楽しめるように、簡単な坂道やトンネルも用意するように考えました。
- ・それまでの学校生活での様子や関心などを大切にして、「作る活動」にもめいっぱい取り組めるようにと考えました。「作る活動」を分担するに当たっては、一人ひとりの好きなこと、興味のもてそうなことから活動を選びました。

## ③実施した単元日程

月日	曜日	主な活動	関連する活動など
5/31	月		・学級だより発行
6/1	火	○カートに乗って遊ぶ。	
2	水		
3	木		
4	金		・学級だより発行
7	月	○「くるま」を作る材料などを買いに行く。	
8	火		
9	水	○「くるま」の装飾などを作る。	
10	木		・学級だより発行
11	金		・児童生徒会新聞「おおぞら」で「くるま」の紹介
14	月		・「GO!GO!テレビ」(校内放送)で、「くるま」の紹介
15	火		・保護者と一緒に遊ぶ
16	水		・学級だより発行
17	木		・学級だより発行
18	金		・全校朝会で「くるま」の紹介
21	月		
22	火	○近くの公園にでかけて、「くるま」に乗って遊ぶ。	・お弁当を持ってでかける (～25日の最終日まで)
23	水		
24	木		
25	金		・学級だより発行

### (3) 主な手立てと配慮

#### ①単元に対する見通しをもちやすいように

- ・1週目は、大好きなカートに乗って、校内を走り回り、楽しくめいっぱい遊ぶようにしました。坂道やトンネルなども次々に登場させて、より楽しく遊ぶようにしました。
- ・これから「何か作るのだ」ということがわかりやすく、期待感や見通しがもてるように、みんな材料の買い物に行きました。
- ・見通しをもちやすい日程を計画するようにしました。  
1週目：カートでめいっぱい遊ぶ、2, 3週目：「作って」「遊ぶ」の繰り返し、4週目：作った「くるま」で一日中めいっぱい遊ぶ

#### 裕太君への手立てと活動の様子

- ・単元の最初の日から「くるま」に乗って遊ぶことを話しました。教室の前に置いてあった「くるま」を見つけて、自分から乗り込み、ハンドルを回していました。

#### ②自分から精一杯取り組めるように（一人ひとりに合わせた手立て）

##### <作る活動で>

- ・それまでの学校生活の様子や、子どもたちの興味・関心を大切にして「せつだん」、「ペンキぬり」、「ネジ打ち」などの活動を用意しました。
- ・一人ひとりが得意なことを生かして、みんな分担して取り組めるように、また、子どもたちが持ちやすいように、「客車」の「かべ」は小さい材料に分ける工夫をしました。(3 × 30)
- ・「かべ」の作り方は、わかりやすいように、同じ作り方でユニットが出来上がるようにしました。
- ・「作る」場は、自分たちの教室の中に設置し、いつでもとりかかれるようにしておきました。お互いの様子が見合えるような、一体感のある配置にしました。

- 
- ① 3 cm幅の材木を30cmの長さに切断する
  - ↓
  - ② 切断した材木に青と黄色のペンキを塗る
  - ↓
  - ③ 30cm×30cmの板にペンキを塗った材料を青と黄、交互にはりつける
  - ↓
  - ④ できあがった30cm×30cmのユニットを「客車」に取りつける

「客車」を作る手順

##### <道具の工夫で>

#### 「せつだん」の直行君

- ・電動丸ノコのスイッチを、手動で入れたり切ったりして、材料を切断しました。
- ・スイッチの入れ忘れや切り忘れが分かるように改良し、レバーを下ろすとスイッチが入ることがわかり、楽しみながら、「せつだん」に取り組むようになりました。



「ペンキ塗り，おもしろいね」

### 「ペンキぬり」の陽君

- ・材料を並べて，ハケでペンキを塗りました。



塗り残しが時々ありました。  
ハケにペンキを付けすぎることがありました。

材料を押し込むと，ローラーが  
回り，ペンキが塗れるような補  
助具を用意しました。

- ・材料を自分でセットして，楽しみながら，  
ペンキをきれいに塗れるようになりました。

### 裕太君への手立てと活動の様子

- ・「くるま」作りをすることを話しながら，一緒に活動場所や道具などを準備をするようにしました。友だちや教師と力を合わせて，「ネジ打ち」に使う材料や道具などを張り切って用意しました。
- ・全ての製作工程を見たり，行ったりしてみたら，「ネジ打ち」を担当しようと話して確認し合いました。初めは「面取り」などに興味を示していましたが，電動ドライバーを持ち，意欲的に取り組みました。
- ・材料や木ネジは，あらかじめセットしておくようにしました。材料を取りやすい位置に，順番に並べて用意しておきました。教師が木ネジをガイド穴に入れると，自分で次々に打ち込みました。慣れてくると，材料のセットも少しずつ自分から行うようになりました。
- ・一緒に取り組みながら，「裕太君，上手に出来たね」「やったー，完成だ」などと，声をかけて，喜び合うようにしました。自分から作っている場所に行き，楽しそうに「ネジ打ち」に取り組み，一つの壁部分を組み立てると，手を叩いて，喜びました。

### <乗って遊ぶ活動で>

- ・教室の出口のすぐ前に「くるま」の車庫を設置しておきました。作っている時も車庫は見える位置にあり，乗ろうという時には，すぐ靴を履いて乗ることができる場所にしました。
- ・「くるま」のアクセルの踏み具合を調節しておいたり，乗り口にステップを付けておいたりしました。
- ・一緒に乗りながら，歓声をあげるなどして雰囲気を盛り上げたり，別の「くるま」の動きを注目できるように，様子を見ながら運転したりして，より楽しく「くるま」に乗れるようになりました。





「水鉄砲でやっつける！」

- ・めいっぱい楽しめるように、「くるま」にクラクション等を付けたり、「客車」に水鉄砲等をつけたりしておきました。
- ・「くるま」や「客車」は複数用意するようにしました。
- ・みんなで乗って楽しめるように、「客車」は全員が乗れる大きさにしました。

### 裕太君への手立てと活動の様子

- ・「くるま」を一緒に運転して遊ぶようにしました。
- ・教師の膝の上に乗し、自分でハンドルを回しながら、運転を楽しみました。
- ・様子を見て、「客車」に誘ったり、別の「くるま」に誘ったりしました。「くるま」作りの活動を終わると、真っ先に自分の好きな「くるま」に乗り込み、友だちや教師と一緒に遊びました。
- ・水鉄砲を用意し、近くを走っている友だちや教師と水をかけ合いながら、遊ぶようにしました。水鉄砲で遊びながら、声をあげて笑ったり、トンネルや「坂道」では、歓声をあげたりしながら、楽しく遊びました。

### ③期待感をもって意欲的に取り組めるように

- ・全校朝会や児童生徒会新聞「おおぞら」,「GO!GO!テレビ」(校内放送)で活動を全校に紹介,全校の話題に挙がるようにして,全校のみんなから声をかけられることなどで,意欲をもって取り組めるようにしました。
- ・単元の開始から,学級だよりで,活動の様子を紹介し,家庭でも話題に挙がり,期待感や意欲をもって,取り組めるようにしました。

### ④満足感・成就感を存分に味わえるように

- ・2,3週目は,「作る活動」と「乗って遊ぶ活動」と活動の流れを同じにして,毎日繰り返し,活動に見通しがもてるようにしました。「作る活動」にも,「乗って遊ぶ活動」にも繰り返し,めいっぱい取り組めるようにしました。
- ・4週目の単元終盤は,作り上げた「くるま」をより広い公園に持って行って,いろいろなコースでめいっぱい遊ぶようにしました。よりめいっぱい楽しめるように,毎日お弁当を持って行って,昼食を食べたら午後も遊ぶ「一日めいっぱい『くるま』で遊ぶ日」にしました。
- ・単元の途中で,保護者も招待して,一緒に「くるま」を作ったり,乗って遊んだりとより「作る・遊ぶ」が盛り上がるようにしました。

- ・ 単元期間中は、昼食後も「くるま」に乗って遊ぶようにし、この時期の生活が「ほくらの『くるま』、しゅっぱ〜つ」中心の生活になるようにしました。

### 裕太君への手立てと活動の様子

- ・ 4週目の単元終盤では、学校のグラウンドとは違うコースに興味いっぱい、意欲的に運転したり、友だちや教師に水鉄砲を飛ばしたりしました。お弁当もみんなで楽しく食べ、午後めめいっぱい「くるま」に乗って楽しみました。

## (4) 単元を振り返って

### ①毎日、「くるま」を作って、乗って

単元の2週目、3週目は、時間の前半を作る活動、後半を「くるま」に乗って遊ぶ活動としたことで、「作って、遊ぶ」という見通しをもって取り組むことができました。

できあがった「かべ」は、その日のうちに、できあがった物から「くるま」に取り付けました。子どもたちは、自分たちの作った「かべ」を次々と取り付け、徐々に「くるま」が完成していくのを見て、満足感をもって取り組みました。

### ②自分から、自分で、「くるま」作りを

「くるま」作りには当たっては、教室に作る場所を常設しておいたので、子どもたちは時間になると、自分から担当している場所に行き、進んで「つくる」活動に取り組むようになりました。

また、子どもたち一人ひとりに合わせて、道具や補助具を用意したことで、はじめは教師と一緒に取り組んでいたところも、一人で取り組むようになりました。



「めいっぱい、作って」



「めいっぱい、くるまに乗って」

### 裕太君の取り組みを振り返って

電動ドライバーに早くから興味を示して、毎日意欲的に取り組みました。裕太君が扱いやすいように小さめの電動ドライバーや、ネジを打ち込む場所がわかりやすいような補助枠を用意したことで、一人で「ネジ打ち」ができるようになりました。友だちが担当する活動にも興味をもって、自分の活動が早く終わった時や昼休みの時間には、他のいろいろな活動にも、嬉しそうに取り組んでいました。

「くるま」で遊ぶ時には、教師と一緒に運転することを楽しみましたが、アクセルの位置を上げて踏みやすくしたり、坂道やトンネルなどのコースを設定したりしたことで、自分で運転することを楽しんで遊ぶようになりました。



## 3 単元「そば料理を作って、食べよう」(小学部高学年)

### (1) 学級の概要

- ・小学部高学年学級 児童7名(男子5名, 女子2名) 教員3名
- ・生活単元学習を週日課の中心に据えている小学部の生活の中で、「遊び」の活動にも存分に楽しんできて、学級生単での製作活動, 例えば燻製作りの調理や燻製箱作りの木工的な活動などにも, いろいろと取り組んできた学級です。
- ・高学年学級では, 学級で畑をもっていて, 年間を通して, 野菜などを作り, 採れたものを調理してみんなで楽しく食べるという活動を大切にしています。

### (2) 単元計画

#### ①概要

- ・平成16年5月31日～6月25日 4週間
- ・高学年の畑に作った「そば」を収穫し, 粉にして, 「そば」や「そばクッキー」「そば団子」などを作って, 毎日楽しく昼食として食べた単元です。
- ・この単元を通して, 毎日, 子どもたちが自分から楽しく「そば料理」作りに取り組み, 学級のみんなで「そば料理」の昼食をおいしく味わう姿を願いました。

#### 泰成君に対するねがい

- ・毎日, 「そば作り」をすることに見通しをもって, 自分から楽しく「そば作り」に取り組んでほしい。
- ・製麺機を使って, ハンドルを回すことを楽しんで, たくさんの麺を作ってほしい。
- ・みんなで作り上げた「そば料理」をおいしく味わってほしい。

#### ②単元の設定理由

- ・高学年学級で年間を通して行っている畑で, 学級のみんなが好きなものをたくさん作って, 調理をしようと考えました。収穫時には, 野外での畑の活動をめいっぱいでき, 繰り返しの活動(収穫・調理)でわかりやすく, 見通しがもちやすいと考えました。
- ・高学年の子どもたちは, 全員「そば」が大好きで, 家庭でもよく食べるものでしたので, 保護者の方々とも相談し, 4月の単元で「そば」の種をたくさんまきました。毎日, 作って食べることが楽しみになると考えました。
- ・調理活動は, いろいろな活動があるので, 子どもたちの得意なこと(製麺機, 抜き型, フードプロセッサー)が生かせる活動をたくさん取り入れられると考えました。

### ③実施した単元日程

月日	曜日	主な活動	関連する活動など
5/31	月	○市販のそばを食べる	
6/1	火	○買い物に行く	
2	水	○全員でそば打ちを行い、食べる	
3	木		
4	金		・学級だより発行（単元の紹介）
7	月		
8	火	午前	
9	水	○「そば料理」作り	
10	木	・そば	
11	金	・そば団子	
14	月	・そばクッキー	
15	火	・かき揚げ	・児童生徒会新聞「おおぞら」での紹介
16	水		・「GO!GO!テレビ」(校内放送)で、そば打ちの紹介
17	木		
18	金		・学級だより発行（取り組みの紹介）
21	月		
22	火		
23	水		
24	木	「そばパーティー」	・校内合宿
25	金		・保護者を招待 ・全校にふるまう ・学級だより発行

### (3) 主な手立てと配慮

#### ①単元に対する見通しをもちやすいように

・単元のはじめは、これから「そば」を作って食べることがわかりやすいように、市販の「そば」を用意して、みんなで楽しく食べるところから行いました。



「そば打ち、大好き！」



「そば料理」

・単元期間中は、午後の「学級の生活」の時間にも、「そば料理」作りにちなんだもの（そば粉ひき、薬味作り、めんつゆ作り、収穫）にすることで、この時期が「そば料理を作って、食べよう」一色の生活になるようにしました。

## 泰成君への手立てと活動の様子

- ・単元の最初の日に新しい単元が始まることを話しながら、実際にそばを作りました。そばをゆでているとき、時々そばのゆで加減を一緒に見るようにしました。そばをゆでていると期待して近くに来て、教師と一緒にゆでたり、ゆであがったそばをおいしそうに味わったりしました。
- ・事前に、材料の購入にでかけることを話題にしました。お店では、そば粉を一緒に探しながら、「おいしいおそばを作ろうね」などと気持ちが盛り上がるように声かけしました。泰成君は学校の近隣の店にでかけ、学級の友だちと一緒に店内を回って、そば粉を見つけ、カゴに入れて、嬉しそうな表情を見せていました。



「そばの収穫」

## <こんなハプニングが！>

- ・そばの収穫期の遅れ：単元の1週目に収穫した「そば」を使って2週目から作れる計画でしたが、実のつきが遅れて、収穫も4週目に入ってからになってしまいました。
- ・同じ活動を繰り返すことを大事にして、収穫できるまでは、市販の「そば粉」を使って、作りました。

## ②自分から精一杯取り組めるように（一人ひとりに合わせた手立て）

- ・「そばクッキー」作りでは、担当の子の好きな形のクッキーの抜き型を用意しました。
- ・「かき揚げ」作りでは、野菜を電動クッキングカッターやフードプロセッサーで細かく切るようにしました。スイッチを大きめの目立って押しやすいボタン式にしました。
- ・かき揚げは「油で揚げる」のではなく、ホットプレートで焼くようにしました。
- ・団子を丸めやすいように、生地を一口大に切ってパレットの上に並べておくようにしました。
- ・自分の目の前で焼くことができるように、小型のコンロを用意しました。
- ・団子にタレを付けやすいように、団子の大きさに合わせた使いやすい小さめのハケを用意しました。
- ・タレは、子どもたちが好きな黒みつにし、もう1種類はのりを巻いて磯辺巻き風の2種類にしました。



「団子の一個はこれくらい」

- ・午後の活動では、石臼をみんなで楽しくひくことができるようにして、取り組みました。
- ・「そば料理」を何種類か作るので、種類ごとにまとまって作れるように配置しました。
- ・それぞれの料理を作る場所を決めておき、一人ひとりが使用する道具や補助具、材料もわかりやすく、整理して置いておくようにしました。
- ・作る物が違って、お互いの様子が見合えるように、中央を向いて座るようにしました。
- ・「そば作り」の担当は、「そば」をゆでたり、そばつゆをかけたりするので、ガスコンロの方へ動きやすいようにしました。



「そばの実をひいて、そば粉作り」

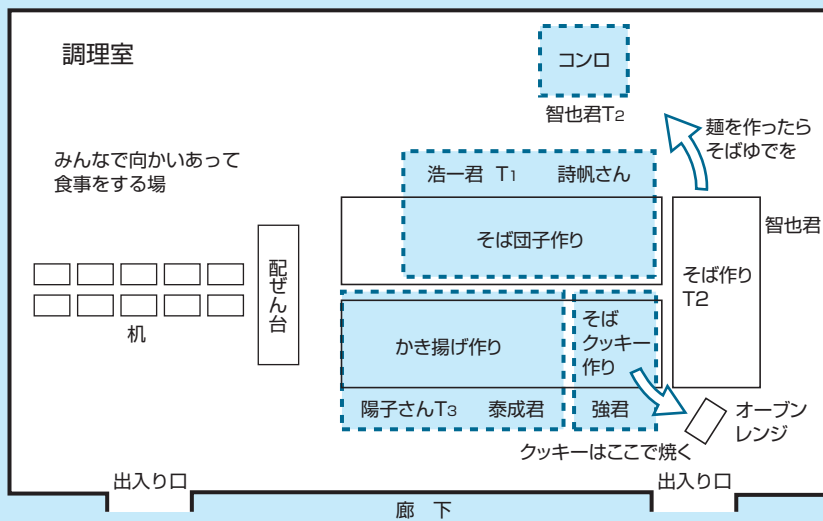


図1 「そば料理」作りの場の配置

- ・「そばクッキー」は、生地からクッキー型で抜いたら、オーブントースターで焼くので、担当の子のテーブルの横に置いて、すぐに焼けるようにしました。毎日、作ったら昼食で食べるので、食事をする場所も調理室の中に設置しておきました。「そば料理」を作っている、すぐ隣に配置し、料理を子どもたちが運びやすいように動線に配慮しました。



「そばの生地を綿棒でのばして」



「そばが、た〜くさん出てくるよ」

- ・配膳台の上も整理して、毎日食事で使う一人ひとりのトレイ、箸、器、皿など料理を盛付けて配りやすいように置いておきました。

### 泰成君への手立てと活動の様子

- ・生地がまんべんなく混ざらない時は、教師と一緒に手を添えて混ぜ合わせるようにしました。その結果、自分から手を伸ばして混ぜることができました。
- ・製麺機の生地を入れる場所に、斜めに仕切り板を取り付けておき、入れる場所を確認し合いました。教師と一緒に製麺機から出て来る麺を見ながら、ハンドルを回して笑顔で取り組みました。麺作りに慣れると、自分から製麺機の前に座って、楽しそうに製麺機のハンドルを回して麺を作りました。
- ・製麺機の隣に、カップを多めに用意し、出てきた麺を次々にカップに入れるようにして、「たくさん麺を作ろうね」などと話しかけました。声をかけると少しずつ自分からそばの生地を取って、繰り返し製麺機に入れて、ハンドルを回すようになりました。製麺機から出てきた麺が、カップにたくさん入ると、うれしそうに教師に笑顔を見せて伝えてくれました。

### ③期待感をもって意欲的に取り組めるように

- ・学級だよりで、活動の様子を紹介し、家庭でも話題にあがり、期待感や意欲をもって、取り組めるようにしました。
- ・児童生徒会新聞「おおぞら」や「GO!GO!テレビ」(校内放送)で活動を全校に紹介し、全校の話題に挙がるようにして、全校のみんなから声をかけられることなどで、意欲をもって取り組めるようにしました。「そばパーティー」では、全校にふるまいました。

### ④満足感・成就感を存分に味わえるように

- ・4週間「そば料理」作りにめいっぱい取り組めるようにと計画しました。
- ・メニューに子どもたちの好きなもの(クッキーや団子など)を取り入れて、毎日作ったり、会食したりすることがより楽しみになるようにしました。
- ・単元の終盤には、校内合宿をして、めいっぱい「そば料理」を作り、食事するようにしました。保護者も招待し、一緒に「そば料理」作りや、「そば」づくしの「そばパーティー」を楽しく行って、単元を締めくくりました。

### 泰成君への手立てと活動の様子

- ・そば作りをお母さんと一緒にしたり、全校にふるまう時にも、そば担当として手渡したりするようにしました。大好きな製麺機でのそば作りをお母さんと一緒に楽しんで行い、そばも他の「そば料理」も、みんなでおいしく食べました。また、全校のみんなにも笑顔でうれしそうに「そば」を手渡していました。



## (4) 単元を振り返って

### ①大好きな「そば」で、意欲満々

自分たちが作ったそばの実で「そば料理」をつくるということで、畑仕事も学級のみんなで力を合わせて、楽しく、収穫などに取り組みました。

活動場所が小学部とは離れた調理室でしたが、「そば料理」作りを毎日繰り返すことで、「おはよう広場」(前の活動)が終わると、自分からエプロンを着けて調理室に向かう姿が多く見られるようになりました。

### ②毎日、楽しく「そば料理」作りを

「そば料理」作りは、子どもたちの好きなもの、得意な活動に取り組んだことで、楽しみながら自分から取り組むことができました。「そばクッキー」作りでは、担当の子どもが好きな型を用意したことで、好きな形を選びながら楽しんで型抜きをしました。「かき揚げ」作りでは、手順を繰り返して行うことで、自分から材料を入れてボタンを押すようになりました。「かき揚げ」はホットプレートで焼くようにしたので、みんなでわいわい楽しく焼くことができました。

調理室の中は、作る時も、食べる時も、囲むような配置にしたので、お互いの活動の様子を見合いながら、楽しんで作ったり、にぎやかに昼食をとったりできました。

### ③家庭でも話題に挙がり、保護者も一緒に「そばパーティー」を!

「学級だより」で毎日、活動の様子などを各家庭に紹介することで、家庭でも「そば料理」作りが話題に挙がったり、保護者から新たな「そば料理」の紹介があったりしました。

単元の最後には、全校の児童生徒に「そば料理」をふるまい、学級の保護者も招待して、一緒に「そば料理」を楽しく作りしました。



「みんなで昼食! いただきま〜す」

### 泰成君の取り組みを振り返って

毎日、登校するとすぐに、「三角巾をつける」、「そばを食べる」という仕草をしました。見通しをもって、毎日楽しく「そば作り」に取り組むことができました。泰成君が興味をもった製麺機を使って、ハンドルをクルクルと回すことを楽しんで、そばをたくさん作りました。全校のみんなに「そば料理」をふるまう時には、一人ひとりに笑顔で手渡しました。たくさん作りたくさん食べて、めいっぱい活動に取り組んだ単元になりました。



## 4 単元「手づくりキャビンで、キャンプだ！」（中学部1年）

### （1）学級の概要

- ・ 中学部1年生3名（男子2名，女子1名） 教員2名
- ・ 生徒3名全員が，小学校特殊学級からの新入学生です。  
中学部全体で20名あまりの中で，こじんまりした家庭的な雰囲気学級の学級です。

### （2）単元計画

#### ①概要

- ・ 平成16年5月17日～6月4日 3週間
- ・ 入学して間もないこの時期，学級のみみんなで「楽しいことをしよう」と相談して「キャンプをしよう」ということにしました。持ち運びが可能な組み立て式のキャビンやテーブル，ベンチを作ったり，野外調理をしたりして，キャンプ場に行き，キャンプを楽しんだ単元です。
- ・ この単元を通して，子どもたちがキャビン作りに精一杯取り組み，仲間とキャンプを満足感いっぱい楽しむ姿を願いました。

#### 岡本君に対するねがい

- ・ 興味のある電動ドライバーを用いた，「キャビン」，「テーブル」や「ベンチ」の組み立てにおいて，手順を確実に覚え，意欲的に取り組んでほしい。
- ・ キャンプで使う物品の注文をする係に積極的に取り組んだり，活動場所の準備や食材の買い物などにも進んで取り組んだりしてほしい。
- ・ キャンプでは，キャビンの立ち上げや野外調理などにも意欲的に取り組み，仲間とのキャンプを存分に楽しみ，満足感いっぱい単元を締めくくってほしい。

#### ②単元の設定理由

- ・ 3名とも新入学。中学部に入学して，まもない5月。学級のみみんなで「楽しいことを経験して，豊かな学級の仲間づくりをしよう」と考えました。
- ・ 子どもたちから「キャンプがしたい」と声が挙がりました。新緑の5月。花々いっぱいの野外での活動をめいっぱい楽しむことができそうだと思います。
- ・ キャンプには，寝泊まり用のキャビン，食事用にテーブル・ベンチが必要です。中学生らしい，本物の製作活動を中心にして計画を立てることにしました。
- ・ 校内キャンプ，野外調理で，わくわく感いっぱい，見通しをもって，意欲的に，自分たちの生活に，自分から取り組むことができるだろうと考えました。

### ③実施した単元日程

月日	曜日	主な活動	関連する活動など
5/17	月	○「印旛沼サンセットヒルズオートキャンプ場」へでかける	・キャンプ場管理人へあいさつ
18	火	○校内キャンプ(テント張り,かまど作り,野外調理)	・単元ニュース(毎日)
19	水		・活動場所の準備
20	木	<div style="border: 2px dashed black; padding: 10px;"> <p>キャンプ用 テーブル・ベンチ製作 (2台) (6台)</p> <p>キャビン製作 (6台)</p> </div>	
21	金		
24	月		
25	火		・テーブルとベンチで昼食
26	水		
27	木		
28	金		
31	月		・児童生徒会新聞「おおぞら」で紹介
6/1	火		・活動場所の後片付け
2	水	○デイキャンプ(かまど作り, 野外調理)	・「GO!GO!テレビ」(校内放送)で紹介
3	木	<b>「印旛沼サンセットヒルズオートキャンプ場」でキャンプ</b>	
4	金	食材の購入, キャビンの立ち上げ, 野外調理など	

### (3) 主な手立てと配慮

#### ①単元に対する見通しをもちやすいように

- ・初日に、キャンプ場に出かけて、キャンプをする場所を見たり、簡単な調理をしたりしました。キャンプ場の管理人にあいさつもしました。
- ・2～3日目に、校内キャンプでかまど作りや野外調理を行い、キャンプでの活動がわかりやすくなるようにしました。

#### 岡本君への手立てと活動の様子

キャンプをする場所を地図やパンフレットで確認し合いました。次に来るときはキャビンを作って持って来ること等を話題にしました。岡本君から、「ここに泊まるの」「早く来ようね」などという話題が出て盛り上がりました。

#### ②自分から精一杯取り組めるように(一人ひとりに合わせた手立て)

- ・それまでの製作活動の様子や本人の希望によって、仕事を分担しました。
- ・4日目からはテーブル・ベンチ、キャビンと製作していくようにしました。単元の中心的活動として、毎日、午前中いっぱい存分に取り組めるようにしました。

- ・製作にあたっては、切断や塗装・穴あけ・組み立てなどの工程を分担し、同じ活動に繰り返し取り組めるようにしました。また、材料の流れを考えた工程順の場の配置にしました。
- ・道具や補助具は、一人ひとりに合わせて用意し、様子を見て適宜改善しました。例えば、組み立てはコード式で軽量なものにし、コードは上から吊り下げておくようにしました。木ネジは打ち込みやすいように短い物にし、強度を出すため、本数を多めにしました。木ネジを取りやすいように、口が広めの腰付け式タイプのもので用意しました。
- ・ともに活動しながら、支援もしやすいような教師の配置を工夫しました。
- ・製作している時は、みんなが中央を向いて、お互いの様子が見やすいようにし、一体感のある場の配置にしました。
- ・田淵君は材木を切断した後、その自分で切断した材料を塗装するといった二つの仕事を行うようにしました。
- ・道具は、ローラーの方が速く塗装できるかと考えましたが、本人がハケが使いやすかったので、ハケにしました。



「ハケでいねいに」



「側面板の取り付け」

- ・キャビンの組み立ての後に床に近い部分も組み立てやすいように、台に載せて木ネジを打ち込みやすいようにしました。
- ・組み立てやすい軽量の材料を用意しました。

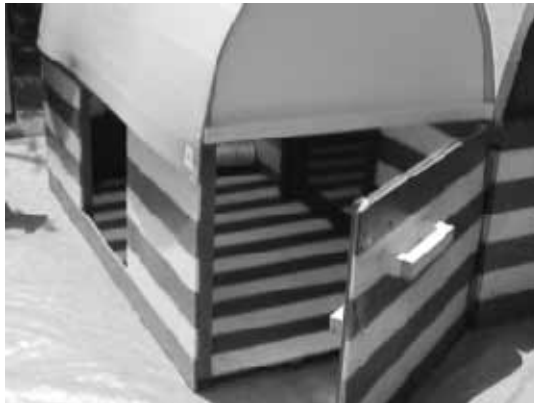


「床に近い方も組み立てやすいよ」



「屋根も軽々と組み立てられるよ」

- ・キャビンの床面や、テーブルの天板、ベンチの座面は同じ組み立て方で製作できるように工夫し、作る物が変わっても、繰り返し同じ活動に取り組めるようにしました。



「完成！手作りキャビン」

### 岡本君への手立てと活動の様子

- ・木ネジの打ち込み方や打ち込む場所，材料のセットの仕方などを確認し合うようにしました。最初は木ネジをガイド穴に刺してからドライバーを当てていましたが，ビットの先がなかなか合わせられず，教師と一緒に打ち込むことにしました。
- ・磁石付きのビットを用意し，ビットの先に木ネジを付けてから打つように手順を予め確認し合うようにしました。初めはビットの中央に木ネジが付かないこともありましたが，少しずつ慣れて，ネジ先を下に向けて打つようになりました。時々，ガイド穴から外れて，木ネジが曲がったり，最後まで打ち込まないことがありました。
- ・ガイド穴に印を付け，目立つようにしました。両手で電動ドライバーを押さえてガイド穴に合わせ，打ち込む時に木ネジを押さえる手順を確認し合いました。電動ドライバーのコードを吊って可動できるように工夫し，木ネジの先を見やすいようにしました。その結果，両手で電動ドライバーを押さえて打ち込むようになり，最後まで打ち込むことが多くなりました。

### <工夫したところ>

- ・屋根がきれいな半円になるよう，農業用トンネルの支柱とプラスチック段ボールを利用しました。
- ・立ち上げやすく，持ち運び可能なように，床面，壁面などを組み立てユニット式にしました。
- ・生徒と教師の人数から，3台のキャビンを連結し，一つの大きなキャビンになるようにしました。
- ・3台のキャビン内を行き来できるようにして，仲間と楽しく寝泊まりができるようにしました。

### ③期待感をもって意欲的に取り組めるように

- ・できあがったテーブルとベンチを使って，毎日，昼食を取るようになりました。キャビンは入って楽しむことができるよう，製作場所の近くに設置しておくようにして，より意欲的に取り組めるようにしました。

- ・単元ニュースを毎日発行して、家庭でも話題に挙がるようにしたり、児童生徒会新聞や「GO！GO！テレビ」（校内放送）で中学部1年生の取り組みを紹介し、全校の話題になるようにしました。
- ・単元の開始前から、キャンプ場のパンフレットを見たり、野外調理のことを話題にしたりしました。パンフレットや日程計画や完成予想図を教室に掲示しました。
- ・「学級の生活」でも、キャビン内に取り付けて使う小物入れ作りに取り組み、「手づくりキャビンで、キャンプだ！」中心の生活となるようにしました。



「教室に日程計画や完成予想図を」



「キャンプ場のパンフレットも」

### 岡本君への手立てと活動の様子

- ・キャンプの雑誌等を見て、興味をもっていたランタンを購入することを確認してでかけました。買い物では、ランタンを購入することに関心をもって意欲的でした。
- ・テントを張った時にランタンを取り付け、気持ちを盛り上げるようにしました。テントでみんなで寝ることをとても喜んでいました。
- ・キャビンを前日にキャンプ場に持って行って、組み立てたり、デイキャンプを楽しんだりして、期待感をより高めるようにしました。岡本君は、野外調理などに意欲的に取り組み、夜はみんな花火をするなど、存分に楽しんでいました。

### ④満足感・成就感を存分に味わえるように

- ・単元の締めくくりは、キャンプ場に行って、存分にキャンプをするようにしました。事前には、キャビン等を持っていったり、かまど作りをして野外調理をしたりしてデイキャンプもしました。

## （４）単元を振り返って

### ①キャビン作りで期待感を高めて

実際にキャンプ場にでかけたり、キャンプ用のテントを張って泊まったり、かまどを作って野外調理をしたりして、キャンプを楽しんだことで、見通しをもって取り組むことができました。また、毎日、できあがったキャンプ用のテーブルとベンチを使って外で昼食をとることで、キャ



ンプの話題で盛り上がりました。キャンプのために寝泊まり用のキャビン等を自分たちで作り上げることで、キャンプへの期待感が高められました。

キャビンを立ち上げると「中に入ろう」、「ランタンがあるといいね」など会話が弾み、みんなで中に入って楽しみました。

## ②一人ひとりが力を発揮してキャビン作りを

キャビンやテーブル、ベンチの製作に当たっては、切断、塗装、組み立て用のガイド穴あけ、組み立ての工程を考え、生徒と相談し合っ  
て、好きなことを生かせるあるいは得意な活動に取り組めるように分担を決めたことで、一人ひとりが意欲的に活動に取り組むことができました。

生徒によっては、切断と塗装の二つの活動を用意したことで、切断を終えると、自分から塗装の仕事に移り、活動時間内、精一杯取り組むことができました。

また、道具や補助具にも工夫をすることで、自分から仕事に取り組めるようになりました。



「キャビンでキャンプは最高！」

## 岡本君の取り組みを振り返って

電動ドライバーは初めて扱うものでしたが、扱いやすい形状のものを用意したり、木ネジを打ち込みやすいように磁石付きのビットを用意したりしたことで、自分で木ネジを打ち込めるようになりました。また、木ネジを取り出しやすい口の広い腰袋を用意したり、ガイド穴がわかりやすいように、印を目立つように付けたりしたことで、次々と木ネジを打ち込み、組み立ることができました。単元開始前から興味をもっていた道具だったので、意欲的に集中し取り組むことができました。

校内キャンプやできあがったキャビンの立ち上げなどの活動を行っていくにつれ、単元最終日のキャンプへの期待感がより高まりました。完成したテーブル、ベンチで昼食をとりながら、「キャビン作ろうね」、「キャンプ行こうね」などと仲間との会話も弾みました。キャンプでもキャビンの立ち上げや野外調理で活躍し、満足感いっぱい単元を締めくくることができました。



## 5 単元「丘山小学校へ開校記念品を作って届けよう」(中学部3年)

### (1) 学級の概要

- ・ 中学部3年生5名(男3名, 女子2名) 教員2名
- ・ それまでの学級の生活単元学習で, 野鳥を呼ぶための巣箱を作って, 公園に設置しに行く単元を行ったり, 中学部全体の単元で, プランターカバーを木材を使って製作したり, 木工的な製作活動を多くしてきました。昨年度末には, 中学部全体で自分たちで粘土を掘って, 「やきもの」作りをしたことが, それまでの製作活動の経験を大きく広げています。

### (2) 単元計画

#### ①単元の概要

- ・ 平成16年5月17日～6月4日 3週間
- ・ 千葉県内にある東金市立丘山小学校から, 開校記念品作りを依頼され, 学級のみinnで請け負って, ふた付きの湯飲みを350個作り上げ, 届けたという単元です。丘山小学校の子どもたちと一緒に, やきものの湯飲み用に使う土を掘ったり, 千葉大学の美術科に湯飲み用に釉薬を作ってもらったりと, 周りの方々との協力をし合って仕上げた記念品になりました。
- ・ この単元を通して, 一人ひとりが湯飲みやふた作りの仕事に精一杯取り組み, 協力して開校記念品を作り上げ, みんなで丘山小学校へ届け, 喜びを分かち合う姿を願いました。

#### 久保山さんに対するねがい

- ・ 泥しょう鑄込みで成形した湯飲みの模様付けを担当し, 湯飲みを電動ろくろにセットし, 確実に模様を付けてほしい。
- ・ しおりを作成したり, 湯飲みを一つひとつ箱に収めたりして小学校に届けに行く準備をしてほしい。
- ・ 小学校では, 張り切って湯飲みを紹介しながら手渡してほしい。

#### ②単元の設定理由

- ・ 昨年度末に中学部全体で, 粘土掘りから行い, 「やきもの」をたくさん作って, 学校で使うという単元をしたことがきっかけになり, 千葉大学教育学部美術科の先生からの紹介があって, 丘山小学校からの開校記念品作りの依頼を受けることになりました。
- ・ 生徒たちは, 「やきもの」作りの経験があったので, 記念品作りの話を聞くと「記念品を作りたい」「また粘土掘ろう」と意欲満々で, すぐに引き受けることが決まりました。
- ・ 記念品の湯飲みは, 「ふた付きで」という条件があったので, やきもの仕事と, ふたを木材で作ることになると木工の仕事も取り入れられ, いろいろな活動が子どもたちに用意できそうだと考えました。
- ・ いろいろな場所にでかけ, たくさんの方々とお話などすることが好きな生徒もいますので, 昨

年度の「やきもの」作りでの経験を生かして、丘山小学校の方々と粘土掘りをしたり、千葉大学の美術科の方々にも、釉薬作りやふたの彫刻などの協力を依頼したり、周りの方々との協力をしながら進められる楽しい単元になると考えました。

### ③実施した単元日程

月日	曜日	主な活動	関連する活動など
5/17	月	○丘山小学校へあいさつ・受注の確認・土掘り	・学級だより（毎日）
18	火	粘土作り	・活動場所の準備
19	水	粘土作り	
20	木	・泥しょう鑄込み	
21	金	・模様付け	・千葉大学美術科へ連絡
24	月	ふた作り ・切断（正方形） ・切断（四隅） ・塗装	・素焼き
25	火	○千葉大学美術科へ、ふたの装飾依頼・釉薬受け取り	
26	水	湯飲み作り	・本焼き
27	木	ふた作り	・丘山小学校へ連絡
28	金		・児童生徒会新聞「おおぞら」で紹介
31	月		・窯出し
6/1	火		・「GO!GO!テレビ」(校内放送)で紹介
2	水		・校内合宿、前日準備
3	木		
4	金	○丘山小学校に開校記念品を届ける	

※単元開始前から、係の生徒が丘山小学校や千葉大学美術科への連絡をしました。

### (3) 主な手立てと配慮

#### ①単元に対する見通しをもちやすいように

- ・単元初日に学級のみんで丘山小学校にでかけ、あいさつをしたり、湯飲み作りに使う土を掘ったりしました。
- ・単元のはじめに日程表を作り、予定や製作目標数をみんなで確認し合うようにしました。

#### ②期待感をもち、意欲的に取り組めるように

- ・単元の開始前から、「学級の生活」の時間に、記念品作りの話をしながら、湯飲みの石膏型を作りました。(65個)

「日程表」

- ・毎日できた湯飲み（粘土）やふたを棚に並べ、その日に作り上げた数が見えるようにしました。
- ・記念品作りの取り組みの様子を、放送委員会に依頼して「GO!GO!テレビ」（校内放送）で放映したり、学級だよりで家庭に知らせたりして、全校や家庭の話題に挙がるようにしました。
- ・3校が協力して作っていることがわかりやすいように、「丘山小学校・千葉大学コーナー」に、学校の写真や訪問したときの写真などを掲示しておくようにしました。



「丘山小コーナー」

### 久保山さんへの手立てと活動の様子

丘山小学校に向かう車内で開校記念品作りの話題をして、気持ちを盛り上げるようにしました。丘山小学校で会おうとたくさんの人たちに嬉しそうに笑顔であいさつをしました。

### ③自分から精一杯取り組めるように（一人ひとりに合わせた手立て）

- ・湯飲みやふた作りは、得意なこと興味のもてそうなことなどで仕事を分担して、繰り返し取り組んでいくようにしました。
- ・1日分の石膏型や材木を用意しておき、見通しをもって自分から分担の仕事に取り組めるようにしました。
- ・切断では、材木を送りやすいように、ローラーを取り付けたり、切断しやすいように、ガイド枠を取り付けたりしておきました。
- ・湯飲みの模様付けでは、湯飲み（粘土）が動かないような固定具を電動ろくろに付けておいたり、一定の深さに模様が付くように、先のとがった道具の先を曲げておいたりしておきました。



「ふたの材料の切断」



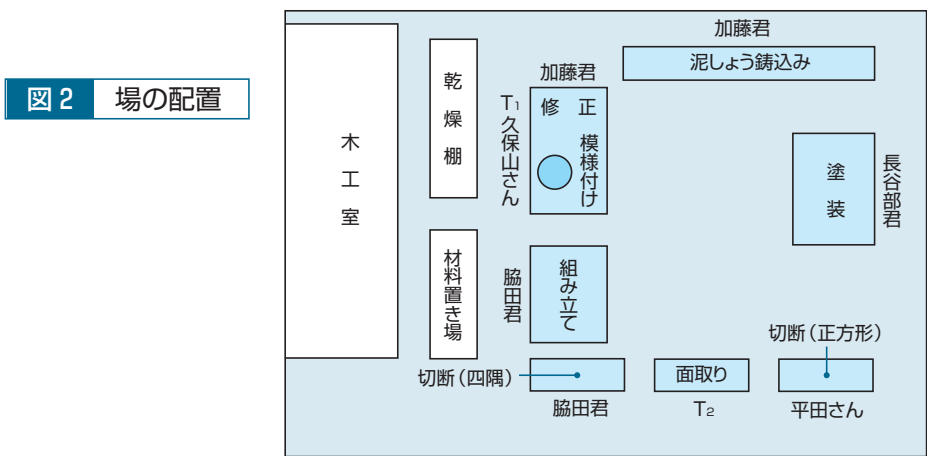
「湯飲みの模様付け」

## ○湯飲みとふた作り（活動内容と道具や補助具など）

<p>&lt;湯飲み作り&gt;</p> <p>①泥しょうを型枠に流し込む。</p> <p>②湯飲みに模様を付ける。</p>	<p>&lt;ふた作り&gt;</p> <p>①卓上切断機で材木を切断する。 ②四隅を切断する</p> <p>③材料をボンドで接着し、ふたを組み立てる。</p> <p>④ふたをトングではさんで柿渋に浸けて塗装する。</p>
--	---

## ○みんなで取り組むよさを大切に<場の配置>

- ・全員でできるように屋外での作業にしました。
- ・泥しょう鑄込みと木工の活動の2種類を行いました。できるだけみんなが一体感をもって取り組めるように、お互いに見合えるような場の配置を工夫しました。



## 久保山さんへの手立てと活動の様子

- ・手順が確実になるまで、一緒に確認し合うようにしました。ガイド枠や模様付け用の道具を置く位置を一定にしておきました。隣で活動しながら、戸惑っている様子がある時には、再度手順を確認し合うようにしました。手順を一緒に繰り返すうちに、徐々に手順を覚え、自分から意欲的に模様付けをするようになりました。
- ・手先が安定しにくい上側の模様を描く時に、模様付けの道具を固定しました。見本を用意して、電動ろくろを何周か回したら止めて、模様の太さや深さを確認することを伝えました。判断に困っていたら、付けた模様を一緒に確認し合うようにしました。模様の太さや深さが一定ではありませんでしたが、電動ろくろを何周か回した後、止め、湯飲みを持ち上げて見本と見比べ、線がしっかり付いているか確認しながら模様を付けるようになりました。
- ・製作している場所の後ろに乾燥棚を設置し、湯飲みを一人で運べるように移動式カートを用意しました。後片付けの時、模様を付け終えた湯飲みを乾燥棚にしまわず、作業台に置いたまま終えようとするものが多かったのですが、移動式カートに湯飲みを乗せて乾燥棚の方へ動かして、棚にきちんとしまうようになりました。

#### ④満足感・成就感を味わえるように

- ・本焼きの窯出し日には、みんなで焼き上がった製品を窯から取り出し、完成の喜びを分かち合うようにしました。
- ・単元最終日前日には、校内合宿を行い、出来上がった湯飲みを箱に入れたり、箱を風呂敷で包んだりして、力を合わせて仕上げ、完成するようにはしました。
- ・単元最終日には、みんなで丘山小学校へでかけ、記念品を届けるようにはしました。
- ・「学級の生活」の時間も単元に関連した活動を行うようにはしました。



「窯だし」

#### 記念品の湯飲みを包むための風呂敷作り

布の裁断をする → 染色は作業班（あいぞめ班）に依頼

#### 緩衝材作り

箱に湯飲みを入れる際の詰め物作り → 不要な紙をシュレッダーで裁断

#### 箱作り

市販の箱の材料を購入，350個の組み立て

- ・単元で終わらなかった分の最後の仕上げの時には、夏休みも一日登校して、最後までみんなで取り組み、作り上げることができました。10月に行われた丘山小学校の開校記念式典にも招待され、学級のみinnで参加しました。みんなで製作した湯飲みのことも紹介され、満足感いっぱい締めくくることができました。

#### 久保山さんの様子

前日から校内に合宿し、しおりを作成したり、箱作り・箱詰めを仲間と一緒にやり、翌日の準備にも精一杯取り組みました。当日、小学校で出会う人々みんなに笑顔であいさつし、校長室で、代表の児童に手渡し、成就感を仲間と分かち合うことができました。

### (4) 単元を振り返って

#### ①丘山小学校と交流して

単元の初日に、学級のみinnで小学校に挨拶に行き、校長先生から記念品の依頼を直接受けたり、小学校の近くの山に、湯飲み作りを使う土を掘りに行ったりしました。記念品作りへの意欲が高まった単元スタートでした。

#### ②関係校のコーナーを作って、話題にして

丘山小学校の他に、千葉大学の教育学部美術科とも連携し合って、進めた単元だったので、教室に各学校のコーナーを作って、訪問したときなどの活動の写真等を掲示し、学級でいつでも話



題に挙がるようにしました。コーナーの隣には、日程計画表を貼り、日程の確認と同時に、連絡や進行状況を話題にすることができました。みんなの気持ちが丘山小学校へ納品をすることに向けて一つになり、「丘山小学校へ開校記念品を届けよう」一色の生活になりました。

### ③一人ひとりが精一杯製作をして

製作活動では、これまでの様子から得意な活動を考え、生徒の希望も生かしながら、仕事を分担しました。子どもの活動の様子に合わせた道具や補助具を用意したことで、初めての活動や道具であっても、活動を進めるうちに慣れて、「自分から」、「自分で」取り組む姿が多く見られました。

### ④みんなの力を合わせて

毎日取り組む製作活動では、一人ひとりの主な活動が明確であったことで、「自分から」、「自分で」、次々と活動することができ、350個の記念品を完成することができました。

また、湯飲みやふた作りの製作活動以外にも、材料の収集活動や記念品の包装に関わることなど、関連する活動が多岐に渡るものだったために、一人ひとりの得意なことを生かし、力を存分に発揮できる単元になりました。

10月の開校記念式典にも招待され、湯飲み作りの様子を丘山小学校のみんなに紹介しました。子どもたちにとって、350個の製作を成し遂げたことと併せて、満足感いっぱいの締めくくりができました。

### 久保山さんの取り組みを振り返って

久保山さんは登校すると、真っ先に、丘山小学校・千葉大学コーナーの前に行き、嬉しそうに写真を見ていました。製作活動になると、湯飲みの模様付けを担当し、成形した湯飲みを電動ろくろの枠にセットして、先の尖った道具で模様付けをしました。初めは電動ろくろや道具の扱いに慣れず、模様が曲がったり、深すぎたりしましたが、ガイドを取り付けて繰り返し取り組む中で、徐々に一定のきれいな模様が付けられるようになりました。



「記念品完成！」

※ 2～5の事例は、各学年での実践を再構成したものです。また、児童生徒名は仮の名前としています。